

チャレンジ

- 隊員時代から，現在に至るまでの活動 -

荻野 晃子

(15-1, マーシャル, 小学校教諭, 岡山市立南輝小学校)

はじめに

「マーシャルってどこにあるの。」私が経験した協力隊の話をする時，たいてい聞かれる質問である。日本では，認知度の低いマーシャルだが，実にすてきな国である。マーシャルは，グアムとハワイのちょうど中ほどにあり，1000を超える小さな島がたくさん集まってできた島国である。島のほとんどは，環礁という真珠のネックレスを広げたような珍しい形をしている。海は透き通っていてとても美しく，島のあちらこちらにはココナッツが生えている。人々は，のんびりとしていてのびやかに生きている。南の島と聞いて誰もが想像する風景が，そこに広がっているのではないだろうか。(写真1)



写真1 美しいマーシャル

私は，そんなマーシャルの首都「マジュロ環礁」のリタ小学校に赴任し，算数教師として青年海外協力隊の活動を行った。子ども達への算数指導に軸足を置きながら，先生方への算数指導の支援やごみ問題，日本の子ども達との交流など，自分の目で実際に見て，放っておけないと思ったこと，自分のやりたいことなどにどんどん取り組んでいった。振り返ってみ

ると、いろいろなことにチャレンジした日々だった。マーシャルでの隊員時代から現在勤務している小学校での様々な取り組みをここに紹介する。

1. 個人での活動

(1) 算数指導(子ども達)

マーシャルの子ども達は、のびのびとしていて明るい。しかし、学習規律ができていないため集中力が低く、理解力に乏しい傾向がある。そこで、分かりやすく、楽しい授業をめざして学習指導にあたることにした。計画的に学習を進めるために学習指導案を作ったり、子どもにとって楽しく、理解の助けになるように補助教材を作ったり、学習規律を作ったりした。学習規律は、「一生懸命勉強する」「ものを食べない」「口笛を吹かない」「時間通りに来る」という四点である。裏を返せば、それまでの子ども達の実態であり、ひどい状態だった。しかし、毎日繰り返して指導することにより、子ども達は学習規律を概ね身に付けることができた。その結果、子ども達は落ち着いて学習に取り組めるようになり、集中力が高まった。

(2) 算数指導支援(先生)

マーシャルの先生方はとてもゆったりしていて、元気なのがいいところである。しかし、やる気がなかったり、指導技術が十分でなかったり、学習内容が理解できていなかったりといくつかの問題を抱えている。

そこで、事前に準備し、働く喜びを実感できることをめざして先生方を支援していくことにした。

まず、指導技術を補うために、授業は必ずチームティーチングで行うようにした。T1とT2を交代して行い、互いの指導の様子を直接見て、参考にするためである。よさや課題をはっきりさせるために、T2は授業中にメモを取り、授業後に感想をT1に渡して、互いのよいところを学びあうようにした。(表1) また、学習内容の理解不足を補うためにワークショップを開いたり、一年が終わるまでに教科書が全くこなせていないなどの実態があったことから、年間計画を提示し、それに従って

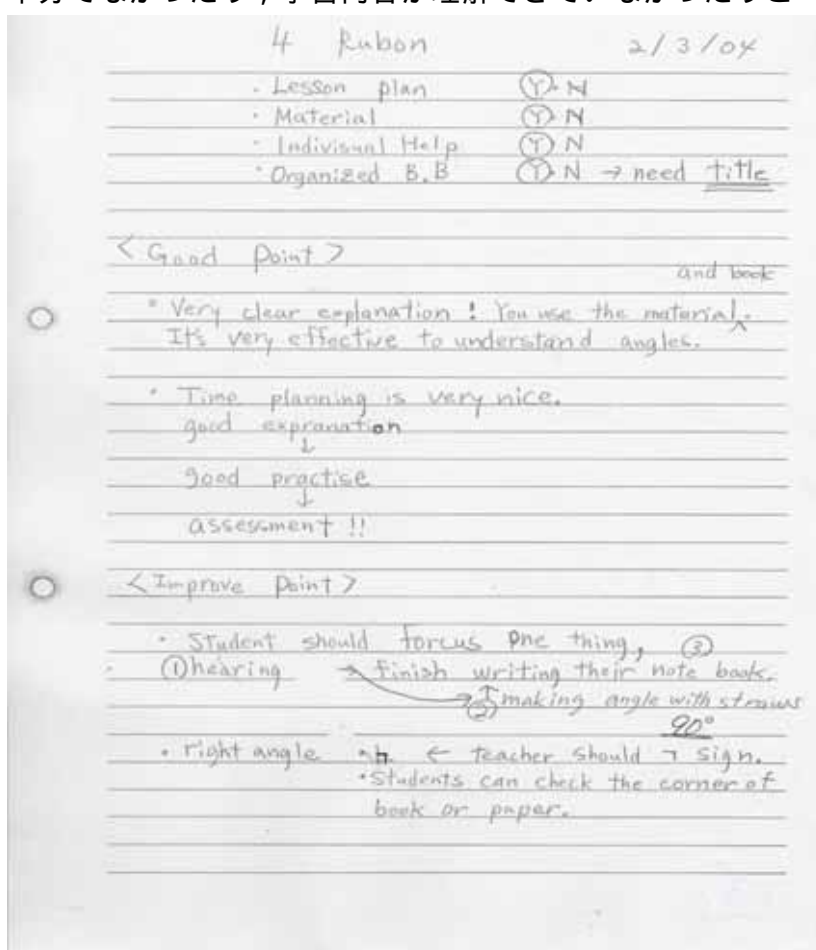


表1 授業後の感想

計画的に授業を進めてもらったりするようにした。

2. 他のJOCVと連携しての活動

それぞれの配属先で点として活動するのではなく、力を合わせ線として活動し、より効果的な活動がしたいと考え、教育省配属の算数担当のシニア隊員が中心となって、小学校算数部会を立ち上げた。部会は月に1・2回開き、配属先での様々な情報の交換や、連携して行っている様々な活動の打ち合わせや準備などを行った。

(1) 公開授業

それまで公開授業形式の算数指導の研修の場がなかったことから、月に一度JOCVが配属されている小学校を会場に輪番制で公開授業を行うことにした。一年目は、この取り組みを軌道に乗せるため、授業や授業検討会の様々な役割は全てJOCVが分担して行った。二年目は、現地の先生方自身で公開授業を持続していけるよう、授業や様々な役割はほとんどマーシャル人が行い、JOCVはその支援をするようにした。三年目である現在は、算数指導者全員が公開授業をし、自分の担当学年を参観する形態をとっていると聞いている。公開授業は、普段の授業の活性化に役立ち、とても有効な研修の場となっている。

(2) 広域研修

2004年8月、パラオやミクロネシアと共に三カ国で広域研修会を開き、カウンターパートと共にパラオでの会議に出席した。その場で、パラオの年間指導計画やミクロネシアの指導法、マーシャルの公開授業など、互いによいところを学びあうことができた。また、共通テストを実施して、自国の算数レベルの低さに気づき、カウンターパートが大変意欲的になったり、三国の共通課題としてレスンプラン(一時間の流れ・年間指導計画)の充実を設定し、それに向けての取り組みができたりして、大変有意義であった。準備をカウンターパートと共に進めていく中で、とてもよい人間関係ができたのも大きな成果だった。(表2)

(3) 計算大会

子どもの基礎基本の定着をはかったり、教師の意欲をあげたりするため、学期に一度、クラス対抗計算大会を開き、結果を発表した。出題は四則計算が中心で、学年ごとに問題を設定し、練習問題やテストを事前に余裕をもって配布して、テスト結果よりも練習していく過程を重視した。(表3)テストの実施後は、その結果を分析し、気づいた点をアドバイスして、意欲の継続を促した。(表4)子どもも教師も意欲的に取り組むことができ、子どもの算数の基礎基本の力の向上につながった。

広域研修

パラオでパラオ・ミクロネシアと共に、広域研修会を開いた。(2004年8月)

<背景> 歴史(USAからの独立)や現在の状況(USAの教科書を使用、課題など)には共通点が多いにも関わらず、各国のつながりがなかった。

<目的> ・互いによいところを学びあう。(パラオの年間指導計画など)
・共通課題を見つけ、それぞれのアプローチの仕方で問題解決に迫る。
進捗状況を情報交換することで、モチベーションを継続し取り組みの活性化につなげる。

<成果> ・カウンターパートととてもよい人間関係ができた。
・共通テストを実施・分析したことで、自国の算数レベルに気づき、カウンターパートが大変意欲的になった。
・互いによいところが学びあえた。
(パラオの年間指導計画・ミクロネシアの指導法・マーシャルの公開授業)
・自分たちの課題について考える、よい機会となった。
・共通課題=レスンプラン(一時間の流れ・年間指導計画)の充実
・レスンプランの充実に向けて、具体的な取り組みを進められた。

<課題> 次の開催につなげるのが難しい。(取り組みの進捗状況・時期等)

表2 広域研修

3 rd JOCV Math Competition						
2 nd Graders <Practice>						
+	0	5	4	8	2	6
3						
6						
7						
5						
9						
8						
<Test>						
+	2	7	8	6	9	5
1						
9						
6						
7						

表 3 計算大会 テスト問題

< 2 Graders > 1 Digit Addition
Some students calculate addition very well. Some students don't have t enough time to finish calculation.
Some students calculate writing bars. Many students calculate using their fingers. I guess some students calculate mentally. Every way is good. Students should study step by step.
Judging from their answer sheets some students has time trouble. To solve this problem teacher can encourage them to calculate mentally. Teachers need to know many strategies. I'd like to introduce one of the ways which I believe will be the best way. Teacher can use make 10 materials board when teacher made JOCV math material workshop.
Application of "Make a Ten" to Addition
Let's use your memory instead of your fingers!!
<u>Step 1</u>
Let's memorize the number which is the difference between 10 and the number.
$10 - 1 = 9$ $10 - 6 = 4$
$10 - 2 = 8$ $10 - 7 = 3$
$10 - 3 = 7$ $10 - 8 = 2$
$10 - 4 = 6$ $10 - 9 = 1$
$10 - 5 = 5$
If you can memorize you are ready to move to the next step now.
<u>Step2</u> You subtract from the make 10.

表 4 計算大会 テスト

3．算数以外の取り組み

(1) 栄養指導

甘いものを取りすぎないことや，三食きちんとごはんを食べることの大切さなどを，朝礼で子ども達に呼びかけたり，学期に一度の保者会で保護者に呼びかけたりした。

(2) ごみ問題

一年目には，環境省と連携して，ポイ捨てをやめようという意識を高めたり，他校とポスターコンテスト行ったりした。また，ピックをして，海岸掃除を行った。

二年目には，環境問題を扱うアメリカ人ボランティアグループに入り，マーシャルの環境問題やその改善策などについていっしょに検討した。また，学習指導案や教材である本を作り，誰もがごみ問題についての授業ができるように形を整えた。

いくつかの取り組みをしたが，ごみ問題の現状は変わらず，ポイ捨ては続いている。習慣

化してしまっているのです、長期的粘り強い取り組みが必要だと感じた。

(3) さまざまな提案

気が付いたことは、積極的に校長先生に直接話したり、職員会議で提案したりした。受けられなかった提案もたくさんある。

(事例1)

以前、朝礼は校長先生の長い話を聞くだけの、子どもにとっては受け身の内容で、話の聞き方もよくなかった。そこで、校長先生の話を短くしてもらうことや、国家を歌うこと、学習したことを学年やクラスで発表することなどを提案した。自分たちも参加するようになったため、朝礼が楽しくなり、話の聞き方もよくなった。

(事例2)

学校には行事がほとんどないという状態だったので、現地のN G Oに依頼し、「教育はなぜ必要なの。」というタイトルの劇をしてもらった。観劇したり、いっしょに歌ったり踊ったりしながら、教育の大切さにふれることができた。

(4) マーシャルと日本のかけはし

自分がマーシャルと日本のかけはしになり、子ども達同士が文化交流をして、互いの国について関心をもってもらいたいという思いから、様々な活動を行った。マーシャルでは、毎回「おはようございます。」と、日本式のあいさつをして授業を始めた。日本には、マーシャルの民芸品やC D写真集などを送ったり、月に一度マーシャル新聞を作って、日本の所属先の学校や岡山県のホームページに載せてもらったりして、多くの人に読んでもらうことができた。また、日本からは、算数セットや、折り紙作品などを届けてくれた。いろいろなやり取りを通して、互いの国を身近に感じ、関心をもつことができたようだ。(図1)

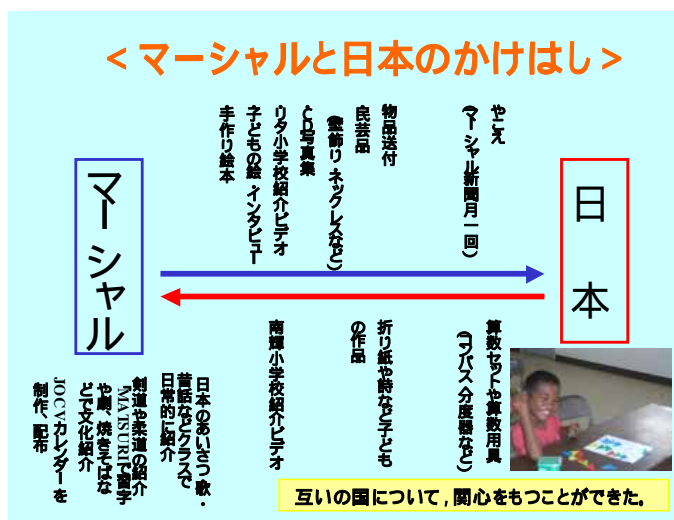


図1 マーシャルと日本のかけはし

4. 帰国後の活動

帰国しても、日本とマーシャルとのかけはしになりたいという思いは変わっていない。自校や他校での職員研修や国際理解のイベントで講師を務めたり、自分のクラスの子供達に、マーシャルの言葉や歌、絵本などを紹介している。また、クラスだけでなく、他のクラスや学年からの要望があれば、出向いて授業ができるように、自分ができることを指し示し、人材バンクとして登録してもらっている。(表5)

また、委員会を中心として全校児童に呼びかけ、絵や習字などの作品募集をして、マーシャルに送る活動をしている。日本とマーシャルの子どもの作品交流につなげていきたい。

マーシャル、出前します！

マーシャルについて何をどう伝えていけばいいのかまだ考えがまとまっていないのが現状なのですが、国際理解の一助になれば幸いと考え、貴重な経験をさせていただいたことを何らかの形で還元していきたいと考えています。何かご要望があれば、学年・クラス単位などでお気軽にお申し出ください。

< 出前リスト > * お話 (トピック)

・ 国の概要	・ 暮らし	・ 私の仕事
・ 学校や子どもたち		
・ 社会問題 (ごみ問題・核問題・温暖化による海面上昇)		
・ 感じたこと (家族の絆など)		

* 言葉 (マーシャル語・英語) * 歌 * 遊び * 絵本 *

料理 * ハンディ・クラフト (かごあみ) (材料あるのかな?)

< 持ち物リスト (貸し出し OK です) >

* 本・雑誌 * ビデオ * CD

・ 核問題について/ ・ 子ども ・ 海 ・ マーシャル新聞 (手作り)

・ リタ小学校紹介 (手作り) ・ マジュロ紹介 (手作り) ・ 第5福電丸の被爆 ・ マーシャル紹介 ・ 海 ・ 歌や踊り

・ 歌

* ハンディ・クラフト * 服 ・ 写真

* 出前を希望される方は、下記の申込書を荻野までお願いします。尚、申し込みはいつでも・いつまでも受け付けます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 切り取り・・・・・・・・・・・・・・・・・・

お名前 ()

1 単 位 ()

2 . 要 望 ()

3 . 時 期 ()

4 . 回 数 ()

表5 人材バンク登録

終わりに

マーシャルでの協力隊活動を通して、たくさんのことを学ぶことができた。この経験を生かして、これからは、日本とマーシャルのよさを合わせもつような教師になりたいと考えている。

協力隊を経験する前と後では、自分自身が教師としてかなり変容しているが、特に以前にも増して、子ども達に、だれとでもなかよくしてほしいと強く願うようになった。(表6)私が、そう強く願うのは、国際理解教育や異文化理解は人権教育と深く関わっていて、だれとでもなかよくできたり、相手の喜びや痛みを自分のことように引き寄せて考えられることがとても大切だと思うからである。だれとでもなかよくできるということは、異文化を受け入

れることである。異文化を違いとするならば、その対象は、クラスの友達、障害者、男女、老人、外国人など、実はどこにでもある。それらの違いに対して排除する方向に進めば、いじめや差別となって表れていく。生きにくい世の中になってしまう。しかし、それらの違いを受け入れた時、世界は豊かに広がっていくに違いない。

たとえ身近に外国人がいなくても、工夫や心がけ次第で、国際理解や異文化理解、またはその素地作りはできる。一步ずつ丁寧に、まずは、子ども達がクラスの友達を大切にすることから取り組みを進めていきたい。

以 前	以 後
<ul style="list-style-type: none"> ・がんばるのは当たり前という見方。 ・うまくいかない時=なんとかしなくちゃ。 ・特に疑問をもつことは少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばっていてすごいという見方。 ・うまくいかない時=そういう日もある ・うまくいく方法をその子にあわせて考えるようになった。
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事は無理してでも精一杯する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な見方ができるようになり、当たり前だと思ってきたことに疑問をもつようになった。 ・日本的な教育だと感じるようになった。 ・基本的に無理はしない。 ・「だれとでもなかよくやってほしい」 ・「その子にもっとあった道はないだろうか」という思いが強くなった。

表 6 教師としての自分の変容

青年海外協力隊 派遣現職教員の活躍

15 - 1 マーシャル
小学校教諭
荻野 晃子



1. マーシャルでの活動

(1) 個人での活動

< 算数 > マジュロ環礁・リタ小学校

(2) 他のJOCVと連携しての活動

< 算数 >

(3) その他

(1) 個人での活動 < 算数 >

算数指導(子ども達)



算数指導支援(先生)



算数指導(子ども達)

分かりやすく、楽しい授業をめざして

- ・ 指導案作成
- ・ 補助教材作成
- ・ 学習規律づくり

< ルール >

1. 一生懸命勉強する
2. ものを食べない
3. 口笛を吹かない
4. 時間を通りに来る

算数指導支援(先生)

事前に準備し、働く喜びを実感できることをめざして

T T

・毎学期(4学期制)担当学年を変え、できるだけ多くの先生と関わる。
・必ず目的を話す。
・どのような入り方をするのかを相談の上、決める。
・授業中に気になったことをメモし、授業後に感想を交換する。

ワークショップ

・大きな数、かけ算、立体、コンパスの使い方についてなど。
・希望を聞いたり、様子を見たりして決定する。
・JOCVの伝達
(広域研修での内容・振り返り・過剰使用のモニター)

年間計画の推進

・1年目は、JOCVが以前作成していた年計を使用。
・2年目は、自分で作った年計を進める。教育省に、サンプルとして提案。
・現在、教育省が年計を作成。今年度より、各校で実施。

(2)他のJOCVと連携しての活動

月に1～2回程度、小学校算数部会を開き、情報交換や、連携して行っている様々な活動の打ち合わせ、準備を行った。(教育省・算数担当のシニア隊員も含めて)

公開授業
広域研修
計算大会



公開授業

算数指導者が研修できる機会をつくるため、月に1度、JOCVがいる小学校(6校)を会場に輪番制で行った。

年度	授業者	授業検討の役割分担	その他
2003 (6校)	JOCV	JOCV	手作り教材の紹介 (授業検討に続いて)
2004 (7校)	カウンターパート	各校で	手作り教材の作成 (別の日を設けて)
2005 (7校)	算数指導者 全員	各校で	

★最後の1時間を公開授業にあて、その後検討会を開いた。

★参加者数は、各校長の理解度によって、違っていた。

広域研修

パラオでパラオ・ミクロネシアと共に、広域研修会を開いた。(2004年8月)

＜背景＞歴史(USAからの独立)や現在の状況(USAの教科書を使用、課題など)には共通点が多いにも関わらず、各国のつながりがなかった。

＜目的＞・互いによいところを学びあう。(パラオの年間指導計画など)
・共通課題を見つけ、それぞれのアプローチの仕方での問題解決に迫る。
進捗状況を情報交換することで、モチベーションを継続し取り組みの活性化につなげる。

＜成果＞・カウンターパートととてもよい人間関係ができた。
・共通テストを実施・分析したことで、自国の算数レベルに気づき、カウンターパートが大変意欲的になった。

・互いによいところが学びあえた。

(パラオの年間指導計画・ミクロネシアの指導法・マーシャルの公開授業)

・自分たちの課題について考える、よい機会となった。

・共通課題＝レスンプラン(一時間の流れ・年間指導計画)の充実

・レスンプランの充実に向けて、具体的な取り組みを進められた。

＜課題＞次の開催につなげるのが難しい。(取り組みの進捗状況・時期等)

広域研修



計算大会

子どもの基礎基本の定着をはかったり、教師のモチベーションをあげたりするため、学期に一度、クラス対抗計算大会を開き、結果を発表した。

・参加は、算数指導者の希望とした。

・出題は四則計算が中心。学年ごとに問題を設定し、練習問題やテストを事前に配布し、結果よりも過程を重視した。

・結果を分析し、気づいた点をアドバイスして、意欲の継続を促した。

＜成果＞・基礎基本の向上につながった。

・子どもも教師も意欲的になった。

＜課題＞テストの実施や採点方法などが徹底しにくい。

(3)その他

・栄養指導・・・朝礼で子ども達に呼びかけ

学期に一度の保護者会で保護者に呼びかけ

・ごみ問題

(1年目)・環境省にプレゼンを依頼

・環境省と連携し、他校とポスターコンクール ピクニック+海岸掃除

(2年目)・環境問題を扱うアメリカ人ボランティアチームに入り、いっしょに検討

・環境省にプレゼンを依頼

・授業案作り

・本作り

・さまざまな提案

(朝礼のもち方や観劇についてなど)

・マーシャルと日本のかけはし



< マーシャルと日本のかけはし >

マーシャル

手作り絵本
子どもの歌・うた・ビデオ
りた小学校紹介ビデオ
く島言葉
島歌謡
島物語
物語絵本
物語絵本
物語絵本

→

←

日本

算数・理科・算数用具
(2バズ・分度器など)
折り紙や時などなどの作品
南興小学校紹介ビデオ
歌・童謡やクラシック
で 日本を紹介
健康や体の部分
や馬・焼きそばなど文化紹介
JOCのカーニバルを
制作 配布

(マーシャル訪問月一回)

やえ

やえ

- (1) クラスの子どもにもマーシャルの紹介
- (2) 日本とマーシャルの子どもの文化交流
- (3) 人材バンクとして登録してもらう 「出前授業」
- (4) 勤務先・他校での職員研修や国際理解のイベントで、講師を務める

以 前	以 後
<ul style="list-style-type: none"> ・がんばるのは当たり前という見方。 ・うまくいかない時＝なんとなくしなくちゃ。 ・特に疑問をもつことは少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばっていてもすごいなという見方。 ・うまくいかない時＝そういう日もある ・うまくいく方法をその子にあわせて考えるようになった。
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事は無理してでも精一杯する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な見方ができるようになり、当たり前だと思っていたことに疑問をもつようになった。 ・日本的な教育だと感じるようになった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に無理はない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「だれとでもなかよくやってほしい」 ・「その子にもっとあった道はないだろうか」という思いが強くなった。

